



II 札幌駅交流拠点再整備コンセプト

世界都市さっぽろへ向
けた基本認識

都心まちづくりの目標

札幌駅交流拠点の位置
づけ・役割

世界と交流する環境首都・札幌 人・モノ・情報・ビジネスの交流拠点の創造

札幌の都心は、多くの人が集い、都市生活の魅力を最もよく享受できる場であると同時に、高次な都市機能の集積を図り、世界レベルの都市の顔として国内外に札幌の魅力をたゆまず発信し続けていくことが求められている。

こうした状況を踏まえ、「都心まちづくり戦略」においては、『人』『創造』『環境』の3つの視点によるまちづくりの推進により、『人を中心とした魅力あるまち』、『新たな文化と活力を創造するまち』、『みどり豊かな環境にやさしいまち』の実現を目指している。

札幌駅交流拠点においてもこれら将来像の具現化は使命であり、都心において交通結節機能が最も集積しているという特性を踏まえると、今後延伸が期待される北海道新幹線や環境にやさしい路面電車を含む公共交通の更なる交通結節機能の強化により、人にやさしいシームレスな交通環境の形成を図るとともに、市内外、国内外とのヒト・モノ・情報等のあらゆる交流によって生み出される新たな産業やビジネスの創造と情報の受発信などがその大きな役割と考えられる。

もとより札幌都心は、札幌の顔であると同時に北海道全体の活性化を牽引する重要な役割を担うことから、札幌駅交流拠点再整備のコンセプトを「世界と交流する環境首都・札幌 ヒト・モノ・情報・ビジネスの交流拠点の創造」とする。

III. 札幌駅交流拠点再整備の基本方針

III-1 札幌駅交流拠点 再整備の基本的考え方

札幌駅交流拠点の再整備にあたっては、世界都市さっぽろとしてこれからの都市の成長戦略を踏まえた上で、札幌駅交流拠点の将来のあるべき望ましい姿を展望し、その実現に向けたプログラムを組み立てていくことが求められている。

(1) 交通結節機能の充実・強化と新たな都市機能の導入（交通と土地利用の一体的再編）

今後の延伸が期待される北海道新幹線や路面電車の延伸、都心ダイレクトアクセスなど、北海道・札幌の玄関口として、交通結節点機能はますます重要になってくる。

一方、土地利用の観点からは、北海道および札幌市の活性化を牽引し、札幌の都心全体の底上げと均衡ある発展を目指すために、札幌駅交流拠点の役割を踏まえた新たな都市機能を誘導し集積していくことが必要である。

こうした状況から、札幌駅交流拠点の再整備にあたっては、新幹線や電車などの新たな交通モードへの対応や現状の交通課題の解消を含めた交通結節点機能の充実・強化と、札幌駅交流拠点にふさわしい新たな都市機能の導入の両方が求められており、これら交通結節点機能と土地利用の再編は一体的に展開することが必要条件となる。

(2) 札幌駅交流拠点を中心とする南北・東西の連携の強化

さらに、札幌駅の南北で交通結節機能の役割分担や近年の開発動向を念頭に置きながら、南北が一体となって、現在の札幌駅交流拠点における交通や土地利用の課題に対応していくことが重要である。

また、都心まちづくり戦略において重点地区として位置づけられている創成川以東地区のまちづくりを推進していくために、東側地区へのネットワーク形成を意識した再整備の考え方が求められる。

(3) 魅力ある都市の風景の形成

世界都市さっぽろとして、世界から投資や人材を呼び込む下地づくりが重要である。具体的には、多様な価値観やライフスタイルに対応し、市民生活の質を高めるための美しい街並みや優れたパブリックスペースの構築、そしてそこでの市民活動を含めた魅力ある都市の風景を形成することが必要である。

Ⅲ－２ 札幌駅交流拠点 再整備の基本方針

(1) 交通結節点形成方針

1) 基本認識

札幌都心部の交通に関する考え方は、都心まちづくり計画(H14)の方向性を受けた、都心交通計画(H16)において「人や環境を重視し、都心の活性化を目指す」という計画理念が打ち出され、これを達成するために、公共交通を軸とした交通システムの充実、適正な自動車等の利用による交通の円滑化、道路空間の再配分による都心再生の具体化、といった方針が策定されている。

交通結節点機能の形成方針においても、基本的にこの考え方を踏襲しつつ、札幌駅交流拠点周辺を取り巻く現実的な交通課題に対応していくことが求められている。

札幌駅交流拠点におけるJR及び地下鉄の乗車人員(平成20年度)は、JR札幌駅が8.6万人/日、地下鉄さっぽろ駅では南北線が6.1万人/日、東豊線で2.7万人/日となっている。

駅前広場は、平成10年に北口(約19,500㎡)、平成12年に南口(約19,000㎡)が整備されている。

北口広場は、ゆとりのある交通機能を持った「交通広場」として位置づけられ、バス、タクシーに加え、自家用発着場および地下駐車場を備え、主に自動車類によるアクセス機能を重視した機能配置となっている。

南口広場は、旅立ち、帰着としての空間、人々が出会い、滞留する空間であり、人々の様々な生活が展開される「人の広場」と位置づけられ、交通機能に加え、人を中心としたオープンスペースに重点が置かれており、都心部の正面性を高める空間形成を図っている。